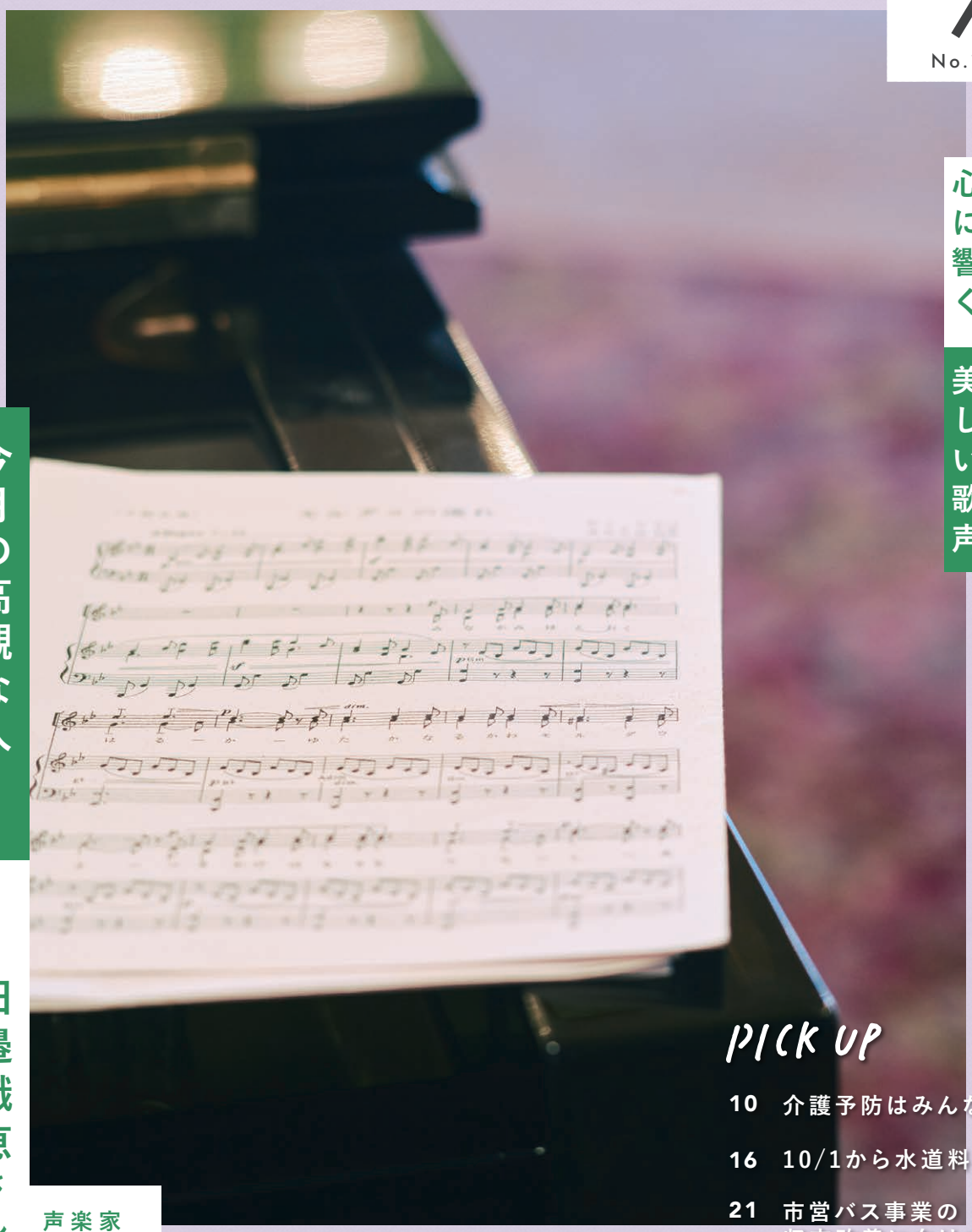
広報たかつき

知る　広がる　好きになる

TAKATSUKI Days

令和7年
7
No.1448



心に響く、美しい歌声

今月の高槻な人

田邉織恵さん　声楽家

PICK UP

10　介護予防はみんなで体操を
16　10/1から水道料金を改定
21　市営バス事業の収支改善に向けて
47　子育てをもっと楽しく仲間とわいわい育児

TAKATSUKI NA HITO

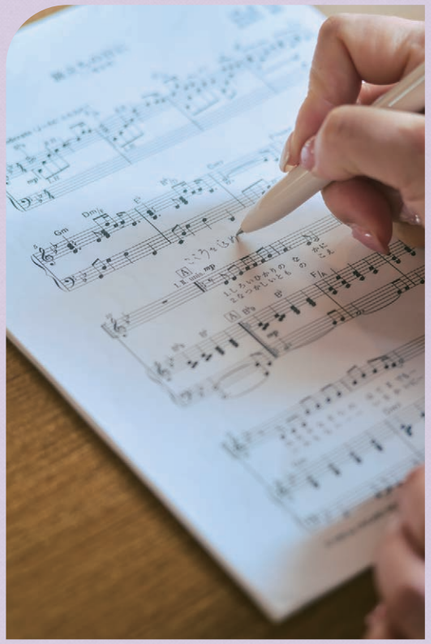
高槻な人

田邉織恵さん

声楽家

心に響く、美しい歌声。

小学4年生から高槻市少年少女合唱団で活動、大阪音楽大学大学院修了後にイタリアに留学。帰国後も高槻で暮らし、合唱団に携わりながら音楽活動も続けてきた田邉織恵さん。歌が生み出す力や、高槻の街の魅力について語っていただきました。



オペラとのゆかりもある高槻。

「日本を代表するソプラノ歌手として活躍した佐藤しのぶさんも桃園小学校、第一中学校の出身。高槻はオペラとの関わりもある街。もっと広めていきたいです」と田邉さん。

絵本と歌がコラボするイベントに出演。

［高槻城公園芸術文化劇場 南館］のサンユレックホールで行われたイベント「絵本とことばと歌と」にゲストとして参加した田邉さん。「犬のおまわりさん」など、おなじみの童謡を歌いました。

中学3年生で声楽家への道を歩み始めて。

高槻市少年少女合唱団のヴォイストレーナーを務める田邉さん。自身の声楽家への道も、中学3年生の時に当時のヴォイストレーナーに勧められたのがきっかけ。

老若男女、多くの合唱団が活動している高槻。

高槻の合唱団の活動は活発だと言う田邉さん。「毎年『高槻市合唱祭』が開催されていますが、少年少女合唱団の他にも25団体ほどが出場します」

心に響く、美しい歌声

TAKATSUKI NA HITO

高槻な人

田邉織恵さん

声楽家

小学4年生で入った合唱団は、代々続いていく家族のよう。

—今日は、高槻市少年少女合唱団の定期演奏会の練習を拝見しましたが、田邉さんたちが指導する中、本番が迫っているということもあり、みなさんとても熱心に歌っておられました。田邉さんの指導歴は長いのですか？

「そうですね。イタリア留学から帰ってきてからは、ヴォイストレーナーとして正式に携わるようになりました。かれこれ20年ぐらいですね」

「絵本のイベントでは、猫のみーちゃんが動物園に行くというストーリーにしました」

—それはずいぶん長く携わっていらっしゃいますね。ご自身も合唱団の出身ですよね？

「はい。小学4年生から高校卒業までお世話になりました。以前は、外国の少年少女合唱団の演奏会が毎年高槻であり、賛助出演する子どもたちの募集をしていたんですよ。私は歌が好きだったので、募集チラシを見た母に勧められ、応募しました。その指導をしていた国久昌弘先生がそのまま合唱団を発足し、のちに高槻市少年少女合唱団となり、その合唱団で高校卒業までは団員として、大学、大学院時代はOGとして活動していました」

—合唱団に入る前から歌はお好きだったんですか？

「はい。子どもの頃は保育園で習った歌を、こたつを舞台にして毎日披露していました（笑）」

田邉織恵さんの歩み

昭和51年 1976年	京都で生まれる。その後高槻へ。
昭和57年 1982年	芥川小学校に入学。小学4年生でジュニアコール（後の高槻市少年少女合唱団）に入団。
昭和63年 1988年	第二中学校に入学。部活は、ソフトボール部に所属。
平成3年 1991年	芥川高等学校に入学。
平成6年 1994年	大阪音楽大学音楽学部声楽科に入学。
平成10年 1998年	「第3回高槻音楽コンクール」第1位および市長賞受賞。大阪音楽大学大学院オペラ研究室に入学。
平成12年 2000年	イタリアのパルマ・アッリーゴ・ボーイト国立音楽院入学。修了後、イタリア各地の歌劇場でオペラやコンサートに多数出演。
平成17年 2005年	帰国。平成18年には［高槻現代劇場］中ホールで「帰国記念リサイタル～ありがとうイタリア～」を開催。
平成19年 2007年	平安女学院大学短期大学部保育科（当時）、大阪音楽大学の講師に。
平成25年 2013年	京都教育大学音楽科で准教授に。

—練習を見ていても思いましたが、みんなで一緒に合わせた歌声は、なにかうっとりしてしまう陶酔感のようなものがありました。

「ハーモニーの美しさを体感できるのは、合唱の醍醐味だと思います。国久先生が私のことを小学 4 年生の頃から知っているように、子どもたちが成長し、成人となり親となるまでの姿を私も見ていて、代々続いていく感じはありますね。家族みたいで、とても居心地がいいです」

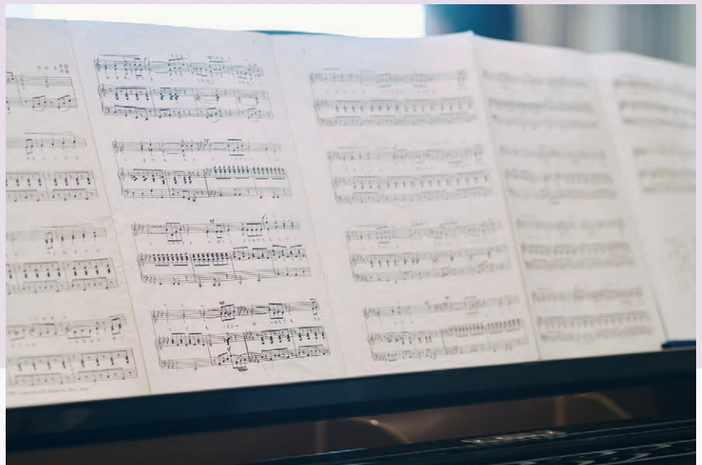
言葉の背景にある文化を学びにイタリアの国立音楽院に留学。

—合唱や歌に親しんだ10代を経て、田邉さんはその後プロの声楽家への道を歩まれます。これは何かきっかけがあったのでしょうか？

「大学生までは、歌が好きで上達したいという自分の表現のためにひたすら練習してきました。でも、大学の卒業演奏を聞いたある方から、『あなたの歌を聞いて、元気をもらった』とお声をかけてもらったんです。え！ 私の歌にそんな力があるのか、誰かの心に響くこともあるのかと、その時初めて気づきました。そういう方がいてくれるかぎりは、歌い続けようと強く決心したのを覚えています」

—そんな思いを持って、大学院卒業後は、イタリア・パルマ市にある音楽院に留学されます。イタリアへ行きたいと思われたのは理由があるのですか？

「大学院ではオペラ研究室で勉強していました。私はイタリアのオペラがすごく好きなんですが、イタリア語で表現しなければならないのに、辞書で調べた言葉や意味以上の表現を実感できてないと思ったんです。だから、その言葉が話されている国の文化や風習に触れることでわかるんじゃないか、その国に飛び込みたいと、イタリア留学を目指しました」



田邉さんが「高槻の音楽の父」と慕う国久昌弘さんと少年少女合唱団を指導します。

—表現をするのに、言葉は大切ですよね。イタリア語はすぐ習得できましたか？

「学生の頃から6年間習っていましたが、現地ではやはり苦労しましたね（笑）。5年間でもまだ完璧ではないですけど」

—どちらの音楽院に留学されていたんですか？

「声楽でとても有名なアッリーゴ・ボーイト国立音楽院です。パルマは作曲家のジュゼッペ・ヴェルディが生まれた街でもありますし、オペラ文化が浸透した街。3年は音楽院で学び、残り2年はコンクールを受けたり、劇場で歌わせてもらったりしました」

—それはすごいです。そのままイタリアで歌い続けるということは考えられなかったのですか？

「それも考えたんですけど、やはり日本でも歌いたいという思いもあったので。5年間で学びたいと思っていたことはある程度できましたし、日本での活動に転換しました」

—帰ってきてからの生活も高槻で？

「はい。帰ってきてすぐ、『ありがとうイタリア』というリサイタルを［高槻現代劇場］中ホールで開催したんですよ。その後も高槻ではさまざまな演奏会に出演させてもらっていますが、この中ホールの響きは特に気に入っています。このホールでの演奏会の録音のおかげで、留学するための奨学金もいただくことができました！」

—高槻のホールが生みだしたイタリア留学だったんですね。帰国後は、平安女学院大学や京都教育大学、母校の大阪音楽大学などで教壇に立たれてお忙しくなるのですが、ご自身の演奏活動は続けられたのですか？

「そうですね。多い時は月に2，3回ほどオペラやコンサートの本番がありました。けれど新型コロナの影響で少し減り、今は大学勤務とのバランスも考えて、年間5～10回ほどです。今年は、9月に［帝国ホテル 大阪］のチャペルで、10月に［京都堀川音楽高等学校 音楽ホール］でコンサートをする予定です」

「声楽家のシンボルといえば艶やかなドレス」と田邉さん。

練習では、手振りや表情の変化で感情を表現していました。

本当に好きな高槻が、どんどんよくなっている。

—それは楽しみですね。田邉さんの歌声を聞く機会をどんどん増やしてほしいですが、高槻では予定はありますか？

「今年は予定はないのですが、来年が声楽家としてのデビュー20周年になるので、ぜひ高槻でリサイタルをしたいですね。［高槻城公園芸術文化劇場 南館］というすばらしい施設ができて、高槻市少年少女合唱団もトリシマホールや太陽ファルマテックホールで公演をしましたが、どちらもとてもよいホールでした」

—ぜひ実現してほしいです。高槻でずっと暮らしてきて、この街の魅力はどういうところにあると思いますか？

「自然を求めれば、街から少し離れただけで山も温泉もあるし、ほどよく都会で便利。JRも阪急も通っていて交通の便もいい。おいしいものもいっぱいで、よく食べ歩きもします。子どもや女性に対しての施策もいいし、安満遺跡公園ができてみんなが集える場所もでき、高槻はどんどん良くなっているなぁと思います。音楽活動においても、私の小さい頃や大学生の頃から応援してくださっている地元の方々がコンサートに来てくださいますし。高槻はとても住みやすい大好きな街です」

—街の魅力がますます広がっていってますね。最後に、歌が持つ魅力を教えてください。

「誰しも人生のさまざまな場面で思い出の歌があると思うんですね。その歌を聞くと当時の自分に戻ったり、その時の感情さえも思い起こしたり。歌によって励まされたり、希望、勇気を持てて、直接心に響き動かす力を持っている。深く豊かに私たちの心をつないでくれるものだから、その喜びを感じながら、今も歌い続けています」

田邉さんの音楽人生に欠かせない高槻現代劇場（現高槻城公園芸術文化劇場北館）の前で。

今月の高槻な人田邉織恵さんの

好きなヒト＆スポット

「高槻の人に、もっとカーテンのことを知ってほしい」とカーテン愛あふれる西垣夫妻。2人の絶妙軽妙なやりとりを聞くのも楽しいので、ぜひ気軽に店を訪れてみて。

01 ヒト

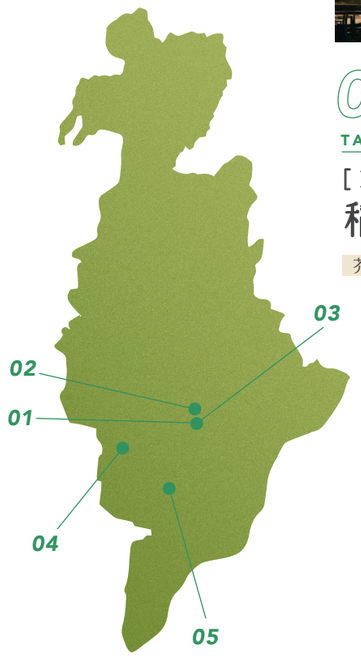
TAKATSUKI NA HITO

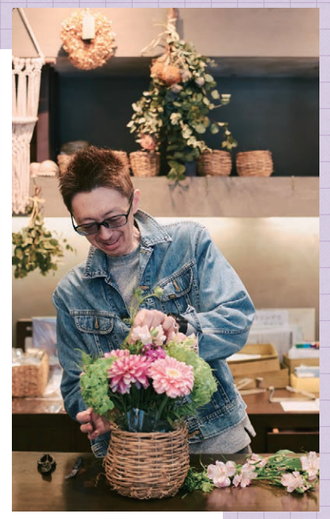
[decorators] 西垣ヒデキさん・シオさん

芥川町

世界でも認められた唯一無二のカーテン。

「抜群のセンスで、他にはない最高にステキなカーテンをデザインしてくれる。ご夫婦もすごくステキな人」と田邉さんお気に入りのカーテン専門店。1987年にオープンし、当時は毎年ヨーロッパの展示会に足を運び、日本ではあまり見かけない個性的な柄の生地を仕入れて仕立て、アメリカの国際的なインテリアの賞も何度か受賞しました。「好きなお洋服を買ったらテンションが上がるように、カーテンを替えるとライフスタイルが変わる幸せのアイテムです」とヒデキさん。





80年以上続く老舗で、勝則さんは3代目。「織恵ちゃんもよく来てくれますが、お母さんもいつも花を買ってくださっています」

03 ヒト

TAKATSUKI NA HITO

[INAGAKI] 稲垣勝則さん

芥川町

珍しい花をそろえるフラワーショップ。

田邉さんの小中学校の同級生のお兄さん・稲垣勝則さんが店主を務めるフラワーショップ。「しょっちゅうお店に遊びに行って、おばちゃん、おじちゃんもよく知っています。こだわりのあるステキな花がそろっていて、プレゼントからリサイタル・発表会の舞台花まで長年お世話になっています」と田邉さん。グレーの壁がシックでモダンな店内に花が映え、「あまり流通していないような珍しい花をメインにしていますね」と稲垣さん。

02 ヒト

TAKATSUKI NA HITO

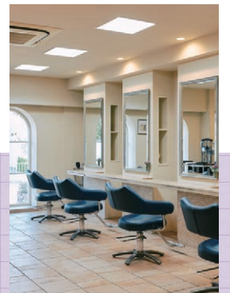
[アトリエMIHO高槻店] 谷岡絵美さん

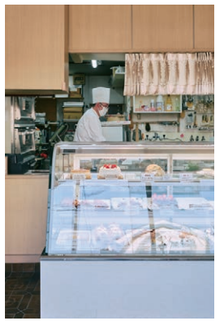
天神町

絶大な信頼を寄せているヘアスタイリスト。

「美容院って自分の思いがちゃんと伝わるかどうかが大切と思っていて。谷岡さんとは長い付き合いで、毎回相談しながらクセのある私のヘアをいつも見事にまとめてくれるので、全幅の信頼をおいています。演奏会のヘアセットもお願いしていますね」と田邉さん。「田邉さんは新しいスタイルにチャレンジされるのがお好きなので、こういう感じが好きかなあと考えながらスタイリングするのは、私も楽しいです」と谷岡さん。

[アトリエMIHO高槻店]は、白を基調としたゆとりある空間。「スタッフは女性だけ。地域密着で来てくださるみなさんに喜んでもらえる店を目指しています」と店長の谷岡さん。





田邉さんもよく買っているシュークリームや生大福。生大福は、スポンジや生クリームなどイチゴのショートケーキの素材を求肥でくるんだ珍しい逸品。

04 スポット

TAKATSUKI NA SPOT

パティスリー　ほんだ

宮田町

高槻で一番おいしいと思うケーキ屋さん。

現在はJR摂津富田駅近くの宮田町に移転しましたが、前は真上町に店を構えていた[パティスリー　ほんだ]。「店の前を通るたびにいい匂いがするので、今日は買おうかやめようかと悩まされました(笑)。高槻で一番おいしいと思うケーキ屋さんで、普段遣いの他、楽屋見舞いや友達の結婚式のケーキなども作ってもらいました。シュークリーム、シュースフレ、スイートポテト、生大福は絶品です」と田邉さん。

05 スポット

TAKATSUKI NA SPOT

新川の桜堤

南庄所町

小さな川の遊歩道に桜のトンネル。

「桜の季節には、サイクリングがてら、おにぎりを持っていき、桜の下で川を見ながら花見をしています。桜とともに北摂の山並みや広い空が見渡せる魅力もあります。最近ここを知って、こんなすばらしい場所があるのかと思いました」と田邉さん。芥川のすぐ脇を流れる新川沿いには遊歩道が長く続き、まるで桜のトンネルを通っているような感覚に。「このあたりにはヒメボタルも生息しているので、その鑑賞も楽しみです」